

2 あかぎボランティアセミナー

平成18年5月27日～28日

1 ねらいとその達成状況

事業項目・区分 (現代的課題等)	ボランティア学習の推進を目的とした事業 ボランティア学習・資質向上及びボランティア学習の指導者・関係者の 研修事業			
事業のねらい (学習要求や必要課題等)	ボランティア活動に関心を持っている社会人・学生・高校生等を対象に、 ボランティアの意義や課題を認識するとともに、社会教育施設におけるボ ランティアの実践体験や情報交換及び事業の企画・立案実習等を通じてボ ランティア活動の充実を図る。			
ねらいの達成状況 (参加者の変容等)	ボランティア活動に必要な心構えやスキルを習得し、ボランティア活動に 対する意欲も向上した。また、多くの参加者が、法人ボランティアとして 登録した。			
参加者のアンケート 結果(満足度)	事業全体	100%	プログラム	100%
	運営	100%	職員の指導・助言	100%

2 企画・立案

事業の必要性 (理由・背景等)	平成14年中教審答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等につい て」では、青少年の奉仕活動を推進することがますます求められている。 本事業では、社会人・学生・高校生を対象にボランティア活動についての 意義や課題を認識させるとともにボランティア体験をとおり、ボランティ ア活動に関わる青年の育成を図る。また、以後のボランティア関連事業の 実践編につなげて、ボランティアリーダーとしての資質や能力の育成を図 ることとする。		
ニーズの把握状況	参加者へ事前調査を実施しニーズを把握した。また、近隣高等学校のボラ ンティア担当教諭からのニーズも反映させた。		
ねらいとプログラムの 関係	ボランティア活動に必要なコミュニケーション能力を育成する活動や参加 者の興味関心のある救急救命活動を取り入れることにより、ボランティア 活動に主体的に参加する契機とすることができる。		
主なプログラム (タイムテーブル)	第1日		
	時 間	プログラム	活動内容概略
	9:00～9:45	開講式、オリエンテーション	ねらいの共有化等
	10:00～12:00	実習1	ボランティアのはじめの一步
	13:00～17:00	実習2	ボランティアってなあに?
	19:00～21:00	実習3	ボランティアスキル
	21:00～22:30	情報交換会	
	第2日		
	時 間	プログラム	活動内容概略
	9:00～12:00	実習4	ボランティアスキル (救急救命講習)
	13:00～13:40	実習5	社会教育施設とボランティア
	13:40～14:00	法人ボランティアについて	法人ボランティア登録の説明
	14:00～14:50	実習6	ふりかえり・まとめ
	14:50～15:30	閉講式	救命講習及びセミナー修了証授与
事業の改善点 (継続事業のみ)	救急救命法の研修を取り入れ、ボランティア学習の幅を広げた。また、救 命技能を有する講習修了証を発行し、人命救助への意識を高めた。		
企画・立案体制(関 係機関・講師との連 携等)	講師と連絡を密にとり、企画・立案を行った。さらに、法人ボランティア が講師となって企画・運営する実習時間を設け、現役ボランティアと参加 者がともに活動し交流を深めた。		
募集人数の設定基準	無理なくワークショップ体験や救急救命講習ができる人数を基準とし、参 加者や法人ボランティア、講師の人数を設定した。		
実施時期の設定理由	年度の早い時期に設定することにより、任意のボランティア活動や法人ボ ランティアとしての活動を、1年を見通した計画的な取り組みにできると 判断したため。		

3 参加状況等

募集人数・募集対象	募集人数：40人 募集対象：高校生・学生・社会人等でボランティアに関心のある方
参加者数(申込者数)	参加者数：63人(申込65人)、法人ボランティア9人

参加者内訳	高校生：47人，学生：11人 社会人：5人（20代1人，40代3人，60代1人）
参加地域	設置道県：54人， 設置道県以外：9人（内訳：栃木県1人，茨城県1人，埼玉県1人，東京都1人，神奈川県5人）
広報活動	開催要項・チラシの配布及び掲載（関東地区の社会教育施設・都道府県委員会等・青少年教育団体・各種学校・WEB上・新聞・広報誌等）
参加費	3,000円
運営担当者	企画指導専門職：4人

4 事業実施

ねらいの周知・方法 （参加者・講師・職員）	参加者には，WEB上でねらいや当日の内容を確認できるようにした。さらに2次案内によりねらい等を周知した。講師と職員とはメールのやりとりや事前の打ち合わせにおいて，ねらいを共有化した。
参加者の学習状況 （学習内容・方法）	ワークショップでは，各自のボランティア観を話し合うなどして，ボランティア活動に必要なスキルについて考えを深めた。また，参加者や講師，法人ボランティアとの情報交換会では，積極的な質問や体験談が聞かれた。救急救命講習では，応急手当の基礎知識や心肺蘇生法の手順等について学習し，人命救助の観点からもボランティア活動への関心をさらに高めた。
日程運営 （スケジュール）	講師による実習に加え，法人ボランティアによる実習，救急救命実習，ボランティアと社会教育施設との関わりの講義等が効果的に学べるプログラムとなるように日程を作成した。
学習環境 （施設設備・教材資料等）	掲示板や壁面を利用して参加者のプロフィール等を掲示し，情報交換が活発に行われるようにした。また，セミナーの中でのグループ制作物等を終日会場に掲示し，共有化を図った。
健康・安全対策	緊急体制については，事務室待機職員と連携しスタッフ全員で手順を確認した。会場には，水分補給のコーナーを設け参加者の体調管理に配慮した。
講師・関係機関等との連携 （ボラ等を含む）	講師と職員，講師と法人ボランティア，職員と法人ボランティアといったように事前に打合せを重ね，共通理解を図りながら企画・立案を行った。

5 事業実施後の評価や普及

参加者の評価 （アンケートの自由記述等から）	「ボランティア活動への関心が深まった」「たくさんの人との交流がとても楽しかった」「このセミナーで学んだことを地域活動や青少年活動に取り入れたい」など，セミナーでの成果が多く聞かれた。
講師・関係機関等の評価	参加者のモチベーションが高く，ボランティア活動について今後も前向きに取り組んでくれるのではないかと評価を得た。
職員の評価 （企画段階から関わったボラ等を含む）	高校生が主であったため，他の参加者とのコミュニケーションがうまくとれない学生も見受けられたが，講師・法人ボランティアとの共通理解を十分に図り，参加者の立場を考慮した運営をすることができた。
事業報告の状況	文教ニュース社や官庁通信社を通して事業内容を発信した。WEB上にも事業報告を公開した。また，所内にも報告の掲示をした。
普及実績 （計画・予定を含む）	本事業は，法人ボランティア及びボランティアに関心のある人を中心に，学校・団体のボランティアの実践者や関係者を対象としているため，各分野・各地域でのボランティア普及効果が期待される。
事業後の反応 （参加者・普及先等）	今回の参加者から，法人ボランティアとして8人が登録し，当施設の企画事業に協力を得ている。参加者の中には，福祉関係の進学を決めた学生がおり，将来への夢につなげることができたとの報告も受けている。

6 その他の特記事項（成果等）

<p>実習1では，ボランティアの原点から出発し，自分自身を見つめ，自分と相手との関わりについて考えるなど「自分探しのためのボランティア」というコンセプトが参加者を引きつけた。</p> <p>講師と法人ボランティアが企画段階から連携し，実習の中で法人ボランティアの取り組みや思いを取り上げたことにより，参加者のボランティアに対する印象をより一層身近なものに感じさせることができた。</p> <p>今年度から救急救命講習を取り入れたことにより，参加者の人命救助についての意識を高め，ボランティアの意義と関連づけた実習となり，参加者のニーズにあったセミナーとなった。</p> <p>今回の講師：宇都宮大学教授 廣瀬隆人氏 前橋市消防本部北消防署白川分署職員</p>	
---	--